



(提供先：一般社団法人 水戸観光協会)

## 今月の1枚

# 保和苑とあじさい

「茨城百景」の1つに数えられる保和苑は、今から300年以上前の元禄時代、“水戸黄門”として知られる水戸藩第2代藩主の徳川光圀公が、大悲山保和院の桂岸寺の庭を愛し、「保和園」と名付けたのが始まりだといわれています。その後、昭和初期に地元の有志によって池に築山の造成等が行われ、純日本庭園として拡張整備されました。その際、名前も「保和苑」と改められました。

昭和25年、保和苑は、桂岸寺より水戸市へ管理が移管されました。それを受け、昭和36年に地元住民と水戸市によって「保和苑振興協議会（現在、保和苑周辺史跡観光連絡協議会）」が発足し、現在も保和苑の運営や周辺地域の景観整備等を行っています。

昭和30年代に、保和苑はさらに拡張され、あじさいの植栽も行われました。現在、1.5haの苑内には、約60種類、約6,000株のあじさいが植えられています。さわやかな初夏の時期には、西洋あじさいやがくあじさい等が、苑内を鮮やかな青や白、ピンク色に彩ります。

毎年、保和苑では、6月中旬から7月初旬にかけて「水戸のあじさいまつり」が盛大に開催されます。期間内は、地元産品の販売、俳句の一般募集、「歴史アドバイザー水戸（市民観光ボランティア）」による観光案内等が催され、多くの観光客で賑わいます。

また、保和苑の周辺一帯は、「水戸のロマンチックゾーン」とされています。桂岸寺や本殿が国指定重要文化財に指定されている水戸八幡宮、「大日本史」の編さんに携わった学者等が眠る常磐共有墓地、幕末維新の志士たちを祀る回天神社、国指定史跡である愛宕山古墳、万葉ゆかりの湧き水・曝井等、水戸の歴史を感じることができる散策スポットが点在し、楽しくまち歩きをすることができます。

美しいあじさいが咲き誇る時期、ご家族・ご友人とともに、保和苑とその周辺を散策してみたいはいかがでしょうか。

(筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ)



◆所在地：茨城県水戸市松本町13-19  
アクセス：【車】常磐自動車道 水戸ICから約20分  
【電車・バス】JR常磐線水戸駅北口バスターミナル7番乗り場(末広町経由/バス)に乗りし末広町3丁目下車(約15分)

「第41回 水戸のあじさいまつり」：平成27年6月14日(日)～7月5日(日)開催  
お問合せ先：水戸市観光課 TEL：029-232-9189